

1 本年度の重点教育目標

みがきあい みんな輝く かやげの子

2 本年度の取組の重点

①組織力の強化 ②確かな学びの実現 ③特別支援教育の充実 ④豊かなつながり

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価結果		学校関係者評価		
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善の方策の評価 主な意見（改善策など）	
①組織力の強化	4つのワークの強化 ・チームワーク（連携・協働、報連相確の徹底） ・ネットワーク（家庭や地域との連携） ・フットワーク（素早い対応） ・ハートワーク（愛情と情熱と相手意識） ・組織力強化による業務改善の推進	a	今後も4つのワークを意識した組織的な対応を強化することにより、重点教育目標の達成を目指し、効果的な業務改善を推進していく。	a	A	
②確かな学びの実現	鍛神スタンダードの徹底 ・かやげ学び∞の徹底	b	「かやげ学び∞」は、ほぼ徹底されているが、教職員がその意義についてあらためて共通理解するとともに、児童への意識付けを継続する必要がある。	a	A	
	個に応じた指導の充実 ・算数科における複数指導体制の確立 ・「自ら学ぶ」学習習慣の定着（ICT活用）	a	個に応じた指導を充実させるため複数体制での指導やICTの活用をさらに工夫していく必要がある。	a	A	
	校内研修の充実 ・日常の授業改善と公開 ・問題解決的探究型授業の充実（ICT活用） ・対話や交流で思考を深める授業実践と改善	a	今後も、ICTの活用を含め、感染症対策を実施しながら対話的な学習活動を行う工夫をしていく。	a	A	
③特別支援教育の充実	インクルーシブ教育を見据えた取組の充実 ・個に応じた交流と共同学習の充実 ・わかる授業の充実（ユニバーサルデザイン・合理的配慮） ・特別支援委員会の充実と関係機関との連携 ・組織的な支援体制の充実	a	支援を要する児童について支援チームで対応するとともに、関係機関との連携も図ることができた。次年度も個に応じた支援ができるよう組織的な取組を継続していく。	a	A	
④豊かなつながり	心のつながりを大切にした指導の充実 ・気持ちのよいあいさつの定着 ・学級・学年での交流、縦割り班、異学年、ブロックでの交流 ・読書活動の充実	b	感染症対策下において、児童自らが工夫する活動を取り入れることなどにより気持ちよい挨拶が定着した。次年度も継続して取り組んでいく。	a	A	・気持ちよい挨拶をする児童の姿が見られる。
	コロナ対応と健康な体と心の育成 ・うがい、手洗いの励行等の「新しい生活習慣」の継続指導と自己の心身の理解 ・学級の一体感を育む体力向上の取組の充実 ・体力テスト、縄跳び、体育授業の充実	a	児童の意識を高め感染症対策を習慣化してきた。今後も対策を継続するとともに、持続可能な体力向上の取組を工夫していく。	a	A	
	地域に学ぶ教育活動の充実 ・コミュニティ・スクールの推進 ・地域の教育力の活用 ・義務教育9年間を見通した子どもの育成 ・幼稚園、保育園、福祉施設との連携	b	感染症対策のため、外部の方々とのつながりをもった教育活動ができなかった。今年度の状況を踏まえ、可能な活動を模索し、取り組んでいく。	a	B	・感染症対策をしっかりとりながら、地域との交流ができればと思っている。

■ 自己評価達成状況

a	ほぼ達成できた（8割以上）
b	概ね達成できた（6割以上）
c	十分ではない（4割以上）
d	達成できなかった（4割未満）

■ 自己評価の適切さ及び改善の方策の適切さにかかる評価

A	自己評価及び改善策は適切であり、取組を進めるべきである。
B	自己評価及び改善策は適切であるが、若干の修正は必要である。
C	自己評価及び改善策の方向性はよいが、若干の修正が必要である。
D	自己評価及び改善策を再度検討する必要がある。